

第4次安城市生涯学習推進計画 第1回策定委員会 議事概要

日 時：令和元年8月21日（水）午前10時00分から
場 所：安城市文化センター 202会議室

<委員出席者> 14名

【委員長】 近藤 金光（社会教育委員）
【副委員長】 黒柳 厚子（社会教育委員）
【委員】 稲垣 英雄（社会教育委員） 日下 律子（社会教育委員）
三井 信子（社会教育委員） 水野 建三（社会教育委員）
柳澤 義雄（社会教育委員） 瀬戸井 明人（社会教育委員）
塚原 和江（社会教育委員） 天野 暢保（社会教育委員）
岩月 江美（公募市民） 小島 英樹（公募市民）
小森 義史（公募市民） 矢羽々 みどり（公募市民）

<委員欠席者> 1名

【委員】 兵藤 伸彦（社会教育委員）

<事務局等出席者> 7名

杉山 春記（教育長）
近藤 芳永（生涯学習部 部長）
久野 晃宏（生涯学習部 生涯学習課 課長）
神谷 高典（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 係長）
天野 信治（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 専門主査）
鳥居 有香（生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係 主査）
加藤 栄司（一般社団法人 地域問題研究所）

<次第>

市民憲章唱和

1. 委員委嘱状辞令交付
2. 委員紹介
3. 委員長・副会長選出
4. 教育長諮問
5. 教育長あいさつ
6. 議題
 - (1) 策定方針・体制及びスケジュールについて
 - (2) 市民アンケート調査について
 - (3) 意見交換
7. その他

<配布資料>

- ・ 次第
- ・ 第4次安城市生涯学習推進計画策定委員会名簿
- ・ 安城市生涯学習推進計画策定委員会規則
- ・ (写し) 第4次安城市生涯学習推進計画について (諮問)
- ・ 第4次安城市生涯学習推進計画策定方針
- ・ 安城市生涯学習に関するアンケート調査

<議事概要>

1. 委員委嘱状辞令交付

杉山春記教育長より各委員に対し委嘱状の交付を行った。

2. 委員紹介

事務局より各委員及び事務局の紹介を行った。

3. 委員長及び副委員長の選出

安城市生涯学習推進計画策定委員会規則第3条の規定により、委員の互選によって委員長には近藤金光委員が、副委員長には黒柳厚子委員が選出された。

4. 教育長諮問

杉山春記教育長より、第4次安城市生涯学習推進計画について第4次安城市生涯学習推進計画策定委員会への諮問が行われた。

【委員長】(あいさつ)

- ・私は社会教育審議会の議長をさせていただいており、町内の公民館長で、公民館長連絡協議会の長でもあります。私は毎日ラジオ体操をしています。180軒ある中で110人がラジオ体操に出てきます。毎年、この人数が集まります。中には出勤前の人たちもいます。ラジオ体操をしていて良いことは、朝、早く起きてラジオ体操をしてから出勤するという事に慣れたということ、朝、出勤直前まで寝ていて、それからエアコンのきいた職場に出勤しては、よい仕事はできません。
- ・これから、少子高齢化になり高齢の親を看なければならなくなりますが、気持ちの問題で、こういった機会を与えてもらったのだといった考えで、親の面倒を看ることを楽しみに変えていかなければなりません。
- ・皆さま方には、この会で気の付いたことを発言していただき、意識を少しでも高揚させることが大事だと思います。忌憚のないご意見をよろしくお願い致します。

5. 教育長あいさつ

- ・ご多忙中、ご出席いただきありがとうございます。先ほど、皆さま方には、策定委員の委嘱並びに教育委員会からの諮問をさせていただきました。社会教育委員の11名の皆さま方に加え、公募として4名の皆さま方の構成による策定委員会ということになります。皆さま方それぞれ、生涯学習活動において多くの実践や経験を育ててみえる方ばかりです。令和という新たな時代からスタートする本計画の策定におきまして、皆さま方のお力添えをお願いしたいと考えております。
- ・諮問書にも記してございましたが、平成30年12月に人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策という方針が中央教育審議会から出されております。その中で、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、次の2点が挙げられております。1点目は、人生100年時代の到来にとともに、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現へ取り組むことです。2点目は、人口減少やグローバル化、つながりの希薄化が進んでいくなか、持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことです。まさに、これからの時代にむけて、社会

教育、生涯学習の地域における意義、役割に大きな期待がかかっていることを示した答申であるといえます。

- ・こうした答申も踏まえまして、本市の生涯学習を推進していく指針として、第4次の生涯学習推進計画を策定していきたいと考えております。策定を始めるにあたり、現在の第3次の計画が一つのベースになってまいるものと思いますが、社会情勢の変化などから方針を見直すべき事業や新たに取り組む必要がある事業など、様々な検討が必要になってまいるものと思います。
- ・来年度末まで、長丁場となりますが、新たな時代にふさわしい第4次安城市生涯学習推進計画の策定につきまして、皆さまから忌憚のないご意見やご助言をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(教育長退席)

6. 議題

(1) 策定方針・体制及びスケジュールについて

《説明》事務局：【資料】第4次安城市生涯学習推進計画策定方針

《協議》

【委員長】

- ・今回以降集まるのは何時になりますか。

【事務局】

- ・来年3月です。

【委員長】

- ・今回の発言は反映されるのですか。

【事務局】

- ・出していただいた意見は反映させていただきます。直ぐに反映させていただくことになるのは、次の議題のアンケート調査になります。

【委員長】

- ・生涯学習という言葉自体を知らないという人、やっている内容を知らないという人もいると思います。
- ・市民の皆さんが、この安城市の地域で生き甲斐を持てるということが大事で、これがあるから住んでいるのだ、これがあるから良いのだといったことは必要です。
- ・もう一つは、個性を活かした活動になっているか。みんな違っていい。楽しく老々介護ができていくか。楽しくなる、住んでいてよかったという方向性が見いだせるような意見出しをしてほしいと思います。
- ・公民館の芸能発表会の参加者も減っているので、世代交代をしていくような方向性を持ってほしいと思います。

【委員】

- ・意見交換のための準備をしてきましたが、行政全体のことを言われてもどう反映されるか理解しかねます。

【委員】

- ・事務局の説明に対する質問を出してもらってはどうか。

【委員】

- ・ 2時間という限られた時間で質問を出すことは難しいと思いますので、事前に資料を送っていただき、予め質問や意見を事務局に出しておき、それを事務局でまとめておいて、そこからスタートすれば議論が煮詰まると思います。2回目では事前に資料を送っていただければと思います。

【事務局】

- ・ 資料と一緒に箇条書きできる質問票を併せて入れておけば、会の始めに説明してもらえる形になると思います。

【委員長】

- ・ 字が細かいということと、網掛けが多く、読みづらいということがあります。質問もしづらと思う。
- ・ とりあえず、我々に向かって何を発信したいかというものを出していただきたい。

【委員】

- ・ 分からない事が言える場面を作ってほしいということですね。

【委員長】

- ・ 私は公民館長を長くやっているのだから分かりますが、皆さん方は分からないと思う。
- ・ この場で質問せよということは大変だと思う。

【委員】

- ・ (資料：13ページ) スケジュールについて、策定委員会の前に社会教育審議会が開かれています。また、次年度には間に作業部会も入ります。社会教育審議会でも討議された課題などが策定委員会のほうにも反映されるというスケジュールなのでしょうか。

【事務局】

- ・ まったく別です。社会教育委員会の方が策定委員会の委員をされているので、スケジュール感を持っていただくために表記しています。

【委員】

- ・ 作業部会の案件は策定委員会に関連が出てくるということでもよろしいでしょうか。

【事務局】

- ・ その通りです。

【委員】

- ・ (資料：12ページ) アドバイザーの益川先生は第3次から関わっておられるのでしょうか、また、既に意見をいただいているのでしょうか。

【事務局】

- ・ 益川先生は第3次には携わっていただいております。第3次では愛教大の大村先生でした。
- ・ 益川先生のほうからはアンケートについてのご意見はいただいております。
- ・ 益川先生は以前、安城市の市民企画講座でお世話になりましたので、安城市のことはよくご存じです。公民館活動については熟知されています。

【委員】

- ・ (資料：6ページ) 第4次安城市生涯学習推進計画の方針の中で、第3次安城市生涯学習計画事業の再検討とありますが、どのような検討がされたのでしょうか。

【事務局】

- ・平成25年度、平成26年度で第3次をつくり、平成27年からの計画にする予定でしたが、アンフォーレを入れてほしいという要望があり、入れ込んだということがあります。
- ・生涯学習は学校教育、社会教育総ての教育を含めた学びで、市役所がやっている講座だけに限らず、個人が個々にやっている自己学習も生涯学習の範疇に入ります。しかし、これら総てを市の生涯学習推進計画とするには無理がありますので、市の公金を使って行う生涯学習に限って、この計画をつくっていくということになります。
- ・生涯学習推進計画としては、生涯学習の分野の中における公民館等を中心にした社会教育の部分にシフトしてつくっていきます。
- ・SNS等も発達しており、それを使って学習している方もいますので、世の中の流れを考慮し、公の事業として生涯学習の進むべき方向を踏まえて計画をつくっていくこととなります。

【委員】

- ・(資料：6ページ) 第4次安城市生涯学習推進計画の中の(2)に総合計画云々とありますが、私たちには総合計画は分かりません。
- ・(資料：6ページ) 第4次安城市生涯学習推進計画の方針の(1)に国、県の生涯学習に関する施策や社会情勢を勘案とありますが、安城市は国、県の生涯学習のどの部分の施策を活かしていこうと考えているのか。また、社会情勢を勘案とありますが、社会情勢は広いのでその中のどの部分に焦点を当てていくのかといったことを文書化して示していただきたい。
- ・(資料：6ページ) 第4次安城市生涯学習推進計画の方針の(2)に事業の再検討とありますが、どの事業を再検討するのでしょうか。自分に関連する事業であれば、ある程度分かりますが、他の事業については分かりません。全部出されても理解し兼ねます。安城市としてはこの部分を再検討するという事を明確にしていきたい。
- ・(資料：6ページ) 第4次安城市生涯学習推進計画の方針の(3)に安城市をめぐる生涯学習の特徴を活かした計画とありますが、行政の方々は生涯学習の特徴をどのように捉えてみえるのかを文章化して明確にしていきたい。また、そうしたものは事前に配付していただきたい。

【委員】

- ・(資料：7ページ) 相談コーディネーターの人材育成について、私は愛知県のコーディネーター育成の講座に参加したことがありますが、他の市町は進んでいると感じました。例えば、学校協働といった話の中で、放課後教室、学校とPTA、地域の人たちが協働していることなど、また、コーディネーターの人材育成も進んでいます。今池小学校で放課後教室の講師をしていましたが、その講座も今年からなくなりました。地域、学校がうまくまわっていくことが、生涯学習にとってよいことではないかと思います。うまい教育をやっていた人が市のコーディネーターのリーダーになれば、生涯学習の講座をうまく組むことができるのではないのでしょうか。安城市としても考えていただきたいと思います。

【委員】

- ・私も研修に参加しました。他の市町は特色が出ていましたが、安城を見た時どうなのかなと考えさせられました。安城の良さもあるはずですが、特色が活かされていないと感じました。茨城県の牛久は特色があるまちとして、まとまっている感じを受けましたが、その地域に合った特色が必要だと思います。安城の良さを洗い出してほしいと思います。

【委員長】

- ・安城にいるから分からないということですね。

【委員】

- ・安城は他市から来た人たちを受け入れてくれる市です。まだまだ、伸びしろがある市だと思います。

【事務局】

- ・安城市の強み、弱みなどの分析、アンケート結果の分析など、次回、現状と課題といった議題に展開していきたいと考えております。また、発言しやすい環境づくりにも努めてまいりたいと思います。

【委員長】

- ・承認ということについて、承認ではなく、皆さんに意見書を出してもらおうと思いますがどうでしょうか。

【事務局】

- ・捕捉ですが、今回の議題（1）については、具体的内容を審議していただくものではなく、承認については、策定体制やスケジュール案レベルについて承認をいただくというものです。

【委員】

- ・細かい話しはこれから議論すればよいので、大枠こういった方向で進めてよいですかといったことについては、個人的には、これでよいと思います。

【委員長】

- ・こういった方向で進めることを承認いただけますでしょうか。拍手をお願いします。（満場一致で承認）
- ・この部分については、これでやっていくということで、承認をいただきました。

（2）市民アンケート調査について

《説明》地域問題研究所：【資料】安城市生涯学習に関するアンケート調査

《協議》

【委員】

- ・今回のアンケートは前回のもと同じ内容でしょうか。違っているところだけ教えてください。

【地域問題研究所】

- ・違っているところはほとんどなく、見やすくしているところや選択肢を変えているところがあります。

【委員】

- ・生涯学習について、ある程度分かっている人を対象に調べたのでしょうか。あるいは、一般的な幅広い対象で収集するのでしょうか。私は今、碁をやっていますが、趣味でやっているのであって生涯学習ではやっていないので、このアンケートのように生涯学習でと問われると、どうなのかなとなってしまいます。

【地域問題研究所】

- ・アンケートは、15歳以上の方を無作為に2千人に行いましたが、一般的な市民の方に配付したアンケートということになります。
- ・ご発言のようにアンケートに回答する際、趣味などを生涯学習として捉えてやっているかと問われれば、答えに戸惑ってしまいます。

【委員】

- ・そういったことを生涯学習として意識してやっている人を調べようとしているのか、無意識の人も含めた人たちについて調べたいのかを聴きたいのです。

【地域問題研究所】

- ・それについては、答えられる方の判断であって、生涯学習ということが意識になくても、取り組んでいることが他者から見て生涯学習だと捉えることができれば、その取り組みは生涯学習と判断できると思います。何らかの取り組みをやっている方を把握したいという意図があります。

【委員】

- ・幅広い人たちについて把握したいということですね。設問は、狭いことを問う場合と広いことを問う場合では、質問の文言が変わりますが、このアンケートを読むとどちらなのか分かりません。
- ・(アンケート：1ページ、3ページ) 表紙に市長が生涯学習について述べていますが、「生涯学習ってなあに」のところで述べられている内容と若干ニュアンスが異なります。
- ・生涯学習という言葉が出てきたのが50年くらい前ですが、広まったのは40年くらい前からです。生涯学習は、「本人が将来のため、人生を豊かにするため、自主的に進んで勉強していくこと」と私は理解しています。ここで、引っかかったのが、「学校の勉強」で、勉強には違いないがこれを入れてもよいのか疑問です。
- ・(アンケート：3ページ) 「3あなたの日頃の生涯学習についておたずねします」とありますが、幅広く捉えるなら「あなたの日頃やっている好きなことについておたずねします」といったような表現がよいのではないのでしょうか。例えば、問7については、「あなたは、この1年くらいの間に、どのような生涯学習を行いましたか」と問われていますが、「あなたは、この1年くらいの間に、どのようなことをやっていますか」と問えば、幅広く捉えられるのではないのでしょうか。
- ・(アンケート：3ページ) 問8では、「あなたは、どのような方法で生涯学習をしていますか」とありますが、「あなたは、どのように一般社会で勉強していますか」としたほうが分かりやすい。
- ・(アンケート：5ページ、6ページ) 問11で「あなたは、生涯学習で学んだことを地域や社会で活かしていますか」とあり、回答には「1活かしている」、「2活かしたいと思うが活かしていない」、「3活かそうと思わない」など、「活かせ」、「活かし」

となっています。問12、問13でも「活かし」、「活かせ」となっており、気になりました。問12では「活動に活かしている、または活かしたいと思いませんか」となっていますが、「せ」とするなら「活動に活かしている、または活かせたいと思いませんか」に統一すべきだと思います。問13では「地域や社会で活かしている」、「かわり方で活かして」となっており、回答でも「5町内活動に活かしている」、「7職業を通しての社会貢献に活かしている」と総て「し」になっています。

- ・(アンケート：7ページ) 問14では「あなたは今後(または引き続き)、生涯学習をしたいと思いませんか」とありますが、「勉強したいと思いませんか」に変えるべきかについては判断しかねます。問15では「生涯学習を始めるきっかけ」、「生涯学習を始める条件」とありますが、「きっかけ」と「条件」の違いが分かりません。
- ・(アンケート：3ページ、8ページ) 問16の回答に「11健康づくり(食育など)」、「12スポーツ(野球、水泳、ウォーキング、体操など)」となっていますが、問7の回答では「11健康づくり(食・栄養、ウォーキング、体操など)」、「12スポーツ(野球、サッカー、水泳など)」となっているので、統一する必要があると思います。
- ・(アンケート：9ページ) 問18では「あなたは市が実施している講座や教室を受講したことがありますか」とありますが、公民館で実施していることなども市が実施していると解釈してもよいのかどうか分かりかねるので、表現を工夫したほうがよいと思います。
- ・(アンケート：10ページ) 問24では「社会還元型の生涯学習」という言葉が出てきますが、言葉が固く、難しいので分かりやすくするように検討していただけたらと思います。

【委員】

- ・このアンケートは無作為に2千人の方々を選んだとなっています。安城市には小学校区が20ありますが、地域は考慮したのでしょうか。また、性別、年齢別も考慮しているのでしょうか。

【事務局】

- ・完全に無作為です。

【委員】

- ・男女別、年齢別としたとき、偏る可能性がありますか。

【委員】

- ・普通は年齢や性別を考慮して無作為抽出するのではないですか。地域、性別、年齢を考慮しないと統計的に有意にならないのではないですか。

【地域問題研究所】

- ・母集団である安城市全員から無作為に抽出すれば、その母集団を反映しているということになります。通常、1千集めれば、母集団を反映するという事になります。もちろん、それは確率論ですが。

【委員】

- ・確率的に無作為に集めれば、バランスはとれるという考えで完全無作為でやっているという理解でよろしいでしょうか。

【地域問題研究所】

- ・そういった理解でよろしいのですが、最近は回答される方は高齢者が多く、若い方の回答率が低くなる傾向にあるため、実際の年齢バランスを反映した形にならないことがあります。抽出方法でウェイトをかける方法もありますが、安城の場合はそのような方法は採っていません。

【委員】

- ・策定方針について、時代の変化が早く、5年くらいで見直しが必要になり、4次の方針の中で、国や県の生涯学習に関する施策や社会情勢を勘案した計画も入ってきました。さらにアンフォーレに関する諸問題もあるということです。このアンケートは、前回は踏襲する形でつくられています。新しい項目に関する質問は設けないのでしょうか。

【事務局】

- ・基本的には前回のアンケートを踏襲しておりますので、新しい要素に関しては載せておりません。

【委員】

- ・市に税金を払っている外国人の方のもとにこのアンケートが届くのかもわかりませんが、そういった諸問題も生涯学習に関わってくる問題ですので、勘案されるのであれば、多少でも新しい項目、時代に沿ったものを出していただければと思います。

【事務局】

- ・男女共同参画の個別計画や図書館計画をつくっており、課題分析はそれらの計画でもやっています。先ほど、組織の説明の中でも出ました幹事会に計画の担当部署も入っていますので、関連個別計画との連携ということで補完していければと思っています。

【委員】

- ・アンケートの回収率はどのくらいあるのでしょうか。最近、若い人たちはSNSなどをやっていますので、そういったものでの回答もよいのではないのでしょうか。

【地域問題研究所】

- ・前々回は48.4パーセント、前回は37.7パーセントで、こういった統計調査の回答率は低くなってきています。

【委員】

- ・2,000人に行っても返ってくるのは、1,000人に満たないということですね。
- ・SNSなどが発達している現在、昔ながらのこのようなアンケートで本当に分かるものなのでしょうか。

【地域問題研究所】

- ・国勢調査でもネットで回答できるようにしていますが、事務局でもそのような入力フォームを市のホームページに立ち上げ、回答の手間を省くなどの工夫をしようという話しは出ています。ただ、回答の量が多いので、かえって分かりづらいのではないかという意見もありました。

【委員長】

- ・私自身は、生涯学習という固い言葉は外したいくらいです。公民館で言えば公民館には遊びに行く、高齢者で言えばアンチエイジングのために楽しく運動するといったように、皆さんが元気で楽しく暮らしていくために、こうしたほうが良いといったスタイルは貫いてほしい。確かに固い文言を外すことで、回答は出やすくなりますが、アンケート調査をすることが目的ではありません。いろいろなことをすることが生涯学習で、勉強をするというふうに捉えられるとやりたくなくなります。アンケート調査をすることによって、行きたくなる、やりたくなるように意識付けできるようにしてほしいと思います。

【委員】

- ・(資料：6ページ) 施策方針の中で、安城市をめぐる生涯学習の特徴を活かした計画とありますが、アンケートには特色が欠けています。(アンケート：5ページ) 問10は安城市の社会教育の環境について考えるものです。公共施設は出ていますが、安城市の生涯学習の歴史的な流れについて考える項目が欠落しています。この地域の社会教育について、歴史的な側面で考えることはできないかと思います。安城市についての特色について、先日、刈谷の研修でこの地域は日本で初めて公民館をつくった場所だと聞きました。それは、昭和22年の4月、桜井町に日本で初めて独立の公民館ができましたが、これは、町でつくったものです。遡って、昭和18年、戦争のさなか、桜井村は村史をつくりましたが、その村史の最初は堀内貝塚の話から始まります。他所の歴史では神話を教えている時代に戦後でも通用するような村史を編纂しています。また、安城の文化協会は愛知県で2番目に発足しています。

【事務局】

- ・今日いただいたご意見は、反映できるよう、努力させていただきます。
- ・今日は意見交換という時間があつたのですが、できませんでしたので後日、意見交換用の用紙を送らせていただきます。それを返信いただきましたら、それを皆さまに展開させていただき、意見交換という形にさせていただきたいと思います。

7. その他

次回は、来年3月に開催の予定。

以上